

第10回 海運・空輸編



産業の歴史をひもとく年代記 沖縄産業 クロニクル

県民の暮らしに密接に関わる
さまざまな産業はどう始まった？
その変遷と展望を紹介します。
監修・山内昌斗(専修大学経営学部教授)



戦前の
貨物輸送は
船が主流



海運・空輸が生み出す 沖縄の地理的優位性

琉球王国消滅後の1887年、旧王家の尚家が海運業の広運社を設立。船員の多くは、かつて王国に仕えた首里の困窮士族で、那覇から奄美大島、鹿児島、神戸、大阪に航路を開きました。尚家は貿易会社の丸一商店も立ち上げており、王国時代に展開した東アジア貿易を再現しようとしていました。しかし、貿易事業は上手くいかず、広運社も国内企業との競争にさらされ、大正初め頃に消滅しました。

戦後、焦土と化した沖縄に援助物資が届けられました。海運の重要性を認識した米軍政府は、琉球海運部を設立。やがて海運部は民営化され、県民の暮らしを守るライフラインに。本土復帰後には旅客事業を拡大し、人や物の輸送を本格化させました。沖縄と本土の移動が難しかった時代、旅行、進学、就職、転勤などで人々はフェリーを利用しました。フェリーは、希望や不安、喜びや寂しさといった当時の感情を思い起こす存在となっています。



戦前の那覇南口の築港。前方に浮かんでいるのは屋良座森城。左方の建物は県立水産学校裏門付近(那覇市歴史博物館提供)

技術の向上で
運航速度もアップ



戦後の琉球海運(株)の「沖縄丸」(那覇市歴史博物館提供)

那覇空港は、国内主要都市のほか、ソウルや香港などアジアの都市とつながる場となります。航空貨物も輸送され、24時間運用可能な那覇空港は、アジアの中継地として注目されるようになりました。県は、スピードに優れた空輸と、コストに優れた海運を組み合わせた新たな国際物流ハブの構築を企画し、国内唯一の国際物流特区に指定されました。

海運・空輸の躍進により、沖縄は世界とつながる場となり、物流を基盤とする新たな発展が期待されています。

羽田・成田空港⇄新千歳・
北九州・那覇空港、そして
那覇⇄北九州空港で運航!

沖縄から
世界をつなぐ
新拠点



ヤマトグループが導入した貨物専用機(フレイター)
(ヤマトホールディングス(株)提供)



那覇港総合物流センター



那覇空港および那覇ふ頭や新港ふ頭地域を一体化し、円滑な輸送体系を構築するために整備された「那覇うみそらトンネル」



沖縄海運・空輸年表

明治

1887年 尚家資本の海運業、広運社設立

昭和

1948年 琉球列島貿易庁設立

1950年 米軍政府直轄の琉球海運部が民営化され、琉球海運(株)設立

1950年 有村産業(株)設立

1959年 沖縄における最初の自由貿易地域を設置

1968年 南海運(株)設立

1972年 沖縄振興開発特別措置法により沖縄自由貿易地域制度が法制化

1987年 那覇市鏡水の一部分が自由貿易地域に指定

1988年 自由貿易地域の供用開始

平成

1999年 中城湾港新港地区の一部(うるま市)が特別自由貿易地域に指定

2009年 全日本空輸(株)が那覇空港を拠点とする国際貨物業務を開始

2011年 那覇うみそらトンネル開通

2012年 特区制度として国際物流拠点産業集積地域を創設

2014年 沖縄県が「国際物流拠点産業集積計画」を策定

令和

2019年 国際物流拠点産業集積地域内に那覇港総合物流センター開業

2020年 コロナ禍の影響を受け(株)ANAカーゴが国際物流ハブ事業を休止

2024年 ヤマト運輸(株)が那覇・羽田・成田間で貨物専用機「フレイター」を導入

2024年 GW2050 PROJECTS 推進協議会設立



(琉球海運(株)提供)

1

米軍政府直轄の海運部から誕生、琉球海運(株)

米軍政府の海運部が民営化して誕生したのが琉球海運(株)。主要株主に県内企業のほか沖縄県、宮古島市、石垣市、竹富町が名を連ねています。海洋博ショックにより一度は会社更生法の適用を受けたものの、約20年かけて経営再建に成功。沖縄の物流を担い、県民の暮らしや経済を支えています。



2

物流業界を変えた“箱”コンテナの発明

20世紀の物流業界において、偉大な発明の一つが鉄の箱である「コンテナ」。これまで木箱や袋などに梱包されていた荷物をコンテナに収めることで、荷役作業が簡易化・機械化され、輸送コストが激減しました。コンテナはグローバル化を促す要因のひとつとなりました。



3

海と空による複合輸送を目指す那覇港総合物流センター

那覇港に立地する那覇港総合物流センターは、アジア地域の物流拠点として期待されています。那覇うみそらトンネルの開通により那覇空港からのアクセスが大幅に向上。海上貨物と航空貨物の連携による新たな国際物流拠点としての実現可能性が高まっています。

注目トピックス

アジアのダイナミズムと沖縄

いまアジアでは、SHEINやTemuのような中国発の越境EC(電子商取引)が急成長し物流が活発化。沖縄の「国際物流ハブ構想」に追い風が吹いています。効率的で迅速な「スマート物流」の実現、再生可能エネルギーを利用した「サステナビリティ物流」など、沖縄の発展の鍵を握るものとして、海運・空輸への期待が高まっています。



県立病院 看護師 募集

LINEお友達登録 ご登録者へ採用試験の日程をご案内いたします

